

平成27年度授業改善推進プラン

清瀬市立清明小学校第5学年

	学力調査から見た課題(調査のない教科は授業における課題)	授業改善のための具体策(重点)	成果と課題(年度末)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字や語彙については、学習時点では理解できるが、それを維持・活用することができない。 文章を比較・関連付けて読み取る力が弱いために、読みが浅くなってしまう。 理由や根拠に着目して推論する力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> 細かく分けて学習していくことで、漢字の定着を図る。間隔をおいて既習漢字の練習に取り組ませる。 音読や読書を通じて、多様な文章表現に親しませる。 普段の授業の中で、比較・推論する場面を増やす。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> 一部の児童で、基本的な知識の定着が低い。 資料から、必要な情報を読み取ることはできるが、読み取ったことから、自分の考えを広げていくことができない。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料やグラフを中心に据えた授業展開をする。 生の声に迫る機会を設定する。(社会科見学、ゲストティーチャー等) 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> 問題を読み取る力・具体的な操作を手掛かりにする力が弱い。 同じ内容でも、出題の方法が変わると解答できない。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて発展的な問題を中心に取り組む時間を設定する。 問題をイメージできるような算数的活動を取り入れたり、日頃の生活の中で、数に関わる機会を設けたりする。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 観察や実験に意欲的に取り組んでいるが考察する能力が低い。 科学的な思考に慣れておらず、条件制御が的確にできない児童がいる。 既習事項が定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 何のための実験なのかを確実に把握させ、実験の仕方なども繰り返し指導する。 予想、結果の考察などをグループや学級全体で話し合う時間を持ち、科学的な思考を深めていく。 実験の機会を多く持ち、実験レポートのまとめ方を習得させる。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うことに課題が見られる。 楽器の特徴を生かして旋律楽器や打楽器を演奏することに課題が見られる。 音を音楽にする過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくることに課題がみられる。 曲想やその変化などの特徴を感じ取って聴くことに課題がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 歌う形態を工夫し、聴き合える場の設定をする。また、合わせやすい声の出し方をするために、姿勢を変化させて歌ったり、発音に気を付けて歌ったりする学習を多く取り入れる。 リコーダーの色々な指づかいに親しんだり、打楽器の打ち方を学んだりする学習を多く取り入れ、奏法が身に付くようにする。 即興表現の活動を大切にしながら、見通しのある音楽をつくる学習を多く取り入れる。 曲想を表すキーワードを大切に鑑賞の学習を行う。 	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 授業のねらいを考えながら活動ができる。 学習活動以外のものに興味・関心が移ってしまい、学習活動に集中できないことが時折ある。 	<ul style="list-style-type: none"> その子の良さを一人一人認め、つくる意欲にむすびつくような声掛けを行う。 学習の目標をわかりやすく提示し、児童がめあてをもって課題に取り組めるよう工夫する。 	
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 興味、関心は高く、生き生きと学習しているが、家庭で手伝いをよく行う児童と、そうでない児童で、技能や知識に差が出ている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で基本的な技能や知識を習得させ、それらを家庭で生かした取り組みができるようにフィードバックする取り組みを行う。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> 全般的に興味、関心が高く、積極的に活動しているが、体力や技能、運動経験などの差が大きい。 持久力が低い。 スポーツマンシップに乏しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ルールなどを工夫し、運動が苦手な児童も楽しくできる活動を考えていく。 技能を高める時間を設定する。 休み時間も積極的に校庭に出て体を動かすように促していく。 授業の中で3分間走を取り入れていく。 オリンピックの精神を通して、勝敗だけでなく真摯に受け止める機会を設ける。 	